

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年5月6日(2011.5.6)

【公表番号】特表2009-534302(P2009-534302A)

【公表日】平成21年9月24日(2009.9.24)

【年通号数】公開・登録公報2009-038

【出願番号】特願2009-500917(P2009-500917)

【国際特許分類】

C 07 C 235/06	(2006.01)
A 61 K 47/20	(2006.01)
A 61 K 45/08	(2006.01)
A 61 K 47/16	(2006.01)
A 61 K 47/22	(2006.01)
C 07 D 295/18	(2006.01)
C 07 D 295/12	(2006.01)
A 61 K 8/46	(2006.01)
A 61 K 8/42	(2006.01)
A 61 K 8/49	(2006.01)
A 61 Q 5/02	(2006.01)
A 61 Q 19/10	(2006.01)
C 07 C 235/08	(2006.01)
C 07 C 231/02	(2006.01)

【F I】

C 07 C 235/06	C S P
A 61 K 47/20	
A 61 K 45/08	
A 61 K 47/16	
A 61 K 47/22	
C 07 D 295/18	Z
C 07 D 295/12	Z
A 61 K 8/46	
A 61 K 8/42	
A 61 K 8/49	
A 61 Q 5/02	
A 61 Q 19/10	
C 07 C 235/08	
C 07 C 231/02	

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月17日(2010.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

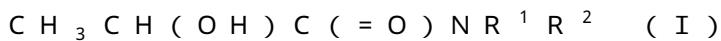
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

製剤中に存在する少なくとも1つの他成分に伴う毒性を低減させるための、前記製剤中の、式(I)



の化合物の、使用であって、

式中、R¹およびR²は、それぞれ独立して、水素、C₁～₆アルキル、C₂～₆アルケニルまたはC₃～₆シクロアルキルであるか；あるいはR¹およびR²は、それらが結合している窒素原子とともに、ピロリジニル環、ピペリジニル環またはアゼパニル環を形成する、使用。

【請求項2】

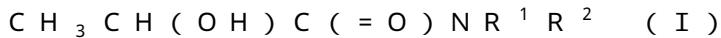
界面活性剤に伴う毒性を低減するための、請求項1に記載の式(I)の化合物の使用。

【請求項3】

前記界面活性剤がラウリル硫酸ナトリウムである、請求項2に記載の式(I)の化合物の使用。

【請求項4】

農薬製剤における溶媒としての、式(I)



の化合物の使用であって、

式中、R¹およびR²は、それぞれ独立して、水素であるか；またはそれがフェニル、ヒドロキシ、C₁～₅アルコキシ、モルホリニルおよびN R³ R⁴(R³およびR⁴はそれぞれ独立してC₁～₃アルキルである)から独立して選択される3個以下の置換基により場合によって置換されているC₁～₆アルキル、C₂～₆アルケニルまたはC₃～₆シクロアルキルであるか；またはC₁～₃アルキルから独立して選択される3個以下の置換基により場合によって置換されているフェニルであるか；あるいはR¹およびR²は、それらが結合している窒素原子とともに、それがC₁～₃アルキルから独立して選択される3個以下の置換基により場合によって置換されているモルホリニル環、ピロリジニル環、ピペリジニル環またはアゼパニル環を形成するが、但し、R²がメチルであるとき、R¹はメチルではない、使用。

【請求項5】

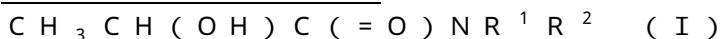
R¹およびR²が、それぞれ独立して、水素、またはC₁～₆アルキル、C₂～₆アルケニルもしくはC₃～₆シクロアルキルである、請求項1、2、3または4に記載の式(I)の化合物の使用。

【請求項6】

R¹がメチルであり、R²が、C₁～₆アルキル、C₂～₆アルケニルまたはC₃～₆シクロアルキルである、請求項5に記載の式(I)の化合物の使用。

【請求項7】

溶媒としての、式(I)



の化合物の使用であって、

R¹がメチルであり、R²が、C₁～₆アルキル、C₂～₆アルケニルまたはC₃～₆シクロアルキルである、使用。

【請求項8】

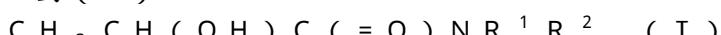
R¹がメチルであり、R²がC₁～₄アルキルである、請求項6または7に記載の式(I)の化合物の使用。

【請求項9】

R¹が水素である、請求項5に記載の式(I)の化合物の使用。

【請求項10】

式(I)



の化合物であって、

式中、R¹およびR²は、それぞれ独立して、水素、C₁～₆アルキル、C₂～₆アルケニルまたはC₃～₆シクロアルキルであるか；あるいはR¹およびR²は、それらが結合している窒素原子とともに、アゼパニル環を形成するが、

但し、

R^2 が水素であるとき、 R^1 は水素、メチル、エチル、プロピル、n-ブチル、sec-ブチル、iso-ブチル、n-アミル、iso-アミル、iso-ブチレニル、n-ヘキシル、1,3-ジメチルブチル、アリルまたはシクロヘキシルではなく、

R^2 がメチルであるとき、 R^1 はメチルまたはアリルではなく、

R^2 がエチルであるとき、 R^1 はエチルではなく、

R^2 がn-ブチルであるとき、 R^1 はn-ブチルではなく、

R^2 がn-アミルであるとき、 R^1 はn-アミルではなく、

R^2 がiso-アミルであるとき、 R^1 はiso-アミルではなく、

R^2 がn-ヘキシルであるとき、 R^1 はn-ヘキシルではなく、

R^2 がアリルであるとき、 R^1 はアリルではない、化合物。

【請求項 1 1】

R^1 および R^2 が、それぞれ独立して、水素、またはC₁~₆アルキル、C₂~₆アルケニルもしくはC₃~₆シクロアルキルである、請求項10に記載の式(I)の化合物。

【請求項 1 2】

R^1 が水素である、請求項11に記載の式(I)の化合物。

【請求項 1 3】

ラクチドを式(II)

HNR¹R² (II)

の化合物と反応させるステップを含む

(式中、 R^1 および R^2 は、請求項10に記載のとおりである)

請求項10に記載の式(I)の化合物の製造方法。

【請求項 1 4】

OR⁵ が離脱基である式(III)

CH₃CH(OH)C(=O)OR⁵ (III)

の化合物を、

R^1 および R^2 が、請求項10に記載のとおりである式(II)

HNR¹R² (II)

の化合物と反応させるステップを含む、請求項10に記載の式(I)の化合物の製造方法。

。